

令和2年9月

看護部ニュース

多重課題編

4月に入職して5ヵ月が過ぎた新人看護師。業務に奮闘の中「多重課題」研修が行われました。

ラダーレベルⅠ

この研修は病棟で実際に起こり得る状況を設定したロールプレイング形式で行います。対応する患者さんの背景や状況設定の説明を受け、自分なりに優先順位を考えてから病室へ行き一人ずつ実施します。その後、グループワークで気づいたことや留意した点などを話し合って発表しました。



呼びかけにも
すぐ反応できました。

シミュレーションでは教育担当の先輩看護師がさまざまな患者さんになりきります。

点滴交換が必要なAさん。更新のための準備をしていると隣のベッドのBさんに「痛い。痛いから痛み止めが欲しいわ」と呼びかけられます。また介助が必要なCさんには「トイレに行きたい」と訴えられます。Cさんには認知症もみられます。

痛みを訴えている
患者さんには
手を添えてあげることで
すごく安心できるそうです。
優しい手



痛み止めを欲しがるBさん。
「お待ちください」と言われた
けれどいつまで待てばよいのか
しら・・・
すぐに効くのかしら、今飲んだ
ら次はどのくらいで飲めるのか
しら・色々な不安や疑問を抱え、
痛みを我慢しています。

患者さんと目線を
合わせて会話をしました。



トイレに行きたいCさん。
認知症もあり「お待ちください」の指示が
通りません。「家に帰りたい」「タクシーを
呼んでほしい」様々な訴えをします。
ベッド柵を鳴らしたり、1人で立ち上がろ
うとします。





入職して半年の新人看護師
達が少しずつ成長している
姿を暖かく見守りながら
時には厳しく指導します。



忙しい中でも患者さんの心に
寄り添う看護を忘れずに…



多重課題では危険の予知、優先順位の判断が重要になります。

様々なシチュエーションにどのように対応するか、何を優先すべきか、ただ「お待ちください」と言うだけではなく、患者さんの気持ちに寄り添った看護ができるようになることがポイントです。

グループワークでは「声かけがうまくできなかった」「一度に声をかけられると焦ってあいまいな返事をしてしまった」「慌てて手指衛生を怠り安全を脅かしてしまった」などさまざまな反省がありましたが先輩たちからは「優しい言葉をかけてくれた」「目線を合わせてくれた」「ちらちら気にかけてみてくれて嬉しかった」など嬉しい言葉を沢山いただきました！

最後に看護部長からのお話です。

命の確保、安全安楽、要望に応えることの順番を念頭に置いておくこと。

まずは命の確保が当然に優先されることであり、その次に「安全安楽」。

患者さんの痛みをとることの大切さを重んじる、痛みは人に伝えることが難しいし、その人の痛みを理解してあげることが大事です。

細かい言葉遣い、靴をそろえてあげるなど、少しの気遣いが患者さんの気持ちを和らげてあげることができる看護師になってほしいです。



先輩方、お疲れ
様でした。
年々患者役の
演技力。
レベルアップ
がすごいです。



**国際医療福祉大学
市川病院**

〒272-0827

千葉県市川市国府台 6-1-14

電話 047 (375) 1111

看護部サイトはこちら⇒

